

施策評価調書(23年度実績)

施策コード I-5-(4)

政策体系	施策名	すべての主体が参加する美しく快適な県づくり	所管部局名	生活環境部	長期総合計画頁	51
	政策名	恵まれた環境の未来への継承～ごみゼロおいた作戦の推進～	関係部局名	生活環境部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②
取組項目	地域における環境保全活動の促進	環境教育・学習の推進

【Ⅱ. 目標指標】

指標	関連する取組No.	基準値		23年度			24年度	27年度	目標達成度(%)						
		年度	基準値	目標値a	実績b	b/a	目標値	目標値	25	50	75	100	125		
i	ごみゼロ行動参加者数(人/年)	①	H16 117,419	270,000	281,477	104.3%	302,500	400,000							
ii	夏の夜の大作戦(キャンドルナイト)への参加施設数(施設)	①	H16 475	2,657	2,657	100.0%	2,695	2,800							
iii	レジ袋削減枚数(万枚/年)	①	H21 7,855	9,300	8,932	96.0%	9,420	9,780							
iv	環境教育アドバイザー派遣団体数(団体/年)	②	H16 36	76	70	92.1%	82	100							

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理由等	平均評価
i	達成 事業所やボランティア団体の活動が増加しており、県民総参加の活動として着実に広がりを見せている。	達成
ii	達成 地域独自の関連イベントが増加するとともに、着実に参加施設が増加しており、省エネ・省資源に対する意識の高揚につながっている。	
iii	概ね達成 H23は新たに1社とレジ袋無料配布中止の協定を結び、取組開始から着実にレジ袋の削減は進んでいるものの、目標値にはやや届かなかった。	
iv	概ね達成 学校や社会福祉施設など各種団体等への環境アドバイザー派遣の件数については、目標値にやや届かなかったものの受講者数は前年を上回っており、県民への環境保全意識の高揚が図られた。	

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組No.	評価
①	・身近な環境保全活動に取り組むごみゼロ隊が23年度末で累計1,894団体が登録しており、地域や事業所単位で活動している。
②	・環境教育アドバイザー登録者数は、前年度より3名増加して65名+1団体となっており、より多様なニーズに対応できるようになっている。

【V. 施策を構成する主要事業の評価】

取組No.	事業名	事務事業評価		事業コスト (千円)
		総合評価	掲載頁	
①	1 ごみゼロおおいた作戦推進事業	見直し(24年度)事業内容の拡充	—	27,530
	2 3R普及推進事業	見直し(24年度)事業内容の拡充	64	39,731
②	1 地域環境保全協働推進事業	見直し(24年度)事業内容の拡充	—	25,824
	2 未来の環境を守る人づくり事業	見直し(24年度)事業内容の拡充	—	8,204

【VI. 主な取組の進捗状況・今後の課題】

進捗状況	取組No.①、②の全てにおいて、概ね順調に進んでいる。	
今後の課題	・ごみゼロおおいた作戦は、事業開始から10年が経過して、ボランティア団体など活動主体や取組内容が固定化してきているので、より多様な層の参加や新たな取組を促す工夫が必要である	・レジ袋無料配布中止については、H24年度がレジ袋削減協定の更新年にあたるため、協定業者の継続と参加事業者の拡大を図る必要がある

【VII. 施策に対する意見・提言】

○「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会(H24.7) ・自然環境、ツーリズムと連携した温泉熱エネルギーの活用を検討してほしい。	
--	--

【VIII. 今後の施策展開について】

今後の方向性	施策展開の具体的内容
現状維持	・より多くの県民がごみゼロおおいた作戦へ関心を持ち、日常生活で環境保全活動を実践するよう啓発や関連イベントの強化、ごみゼロ隊の活性化等を図る。 ・幼い頃から環境に関心を持ち、環境保全活動を実践する人材を養成するため、環境教育の拡充を図る。